（損益計算書に関する注記）
1．当期総利益のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの
⑴　国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの

附属病院に関する借入金の元本償還額	2,626,595千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	1,751,068千円
当期総利益に与える影響額（差引き）	875,527千円

⑵　附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額	503千円
計	876,031千円

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）
1．資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金勘定	12,302,089千円
資金期末残高	12,302,089千円

2．重要な非資金取引
⑴　無償譲与による資産の取得

構築物	4,368千円
工具器具備品	98,487千円
美術品	8,200千円
計	111,055千円

⑵　ファイナンス・リースによる資産の取得　1,226,697千円

（重要な債務負担行為）
該当事項なし。

（金融商品関係）
1．金融商品の状況に関する事項
当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定し、資金調達については国立大学財務・経営センターからの借入れに限定している。
資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、公債のみを保有しており株式等は保有しておりません。また、未収附属病院収入は、債権管理事務取扱規程に沿ってリスク管理を行っている。
国立大学財務・経営センター債務負担金及び長期借入金の使途は附属病院の整備資金であり、文部科学大臣の事前承認に基づいて借入れを実施している。
2．金融商品の時価等に関する事項
期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。
（単位：千円）

	貸借対照表計上額（＊1）	時価（＊1）	差額（＊1）
⑴　投資有価証券			
満期保有目的の債券	2,100,949	2,107,473	6,524
⑵　現金及び預金	12,302,089	12,302,089	—
⑶　未収附属病院収入（＊2）	4,901,911	4,901,911	—
⑷　国立大学財務・経営センター債務負担金（＊3）	(8,146,171)	(8,395,546)	(249,375)
⑸　長期借入金（＊4）	(10,272,225)	(10,418,701)	(146,476)
⑹　長期未払金（＊5）	(1,478,755)	(1,400,097)	(△78,657)
⑺　未払金（＊5）	(6,297,301)	(6,297,301)	—

（＊1）　負債計上されているものについては、(　)で示している。
（＊2）　徴収不能引当金を控除している。
（＊3）　一年以内返済予定国立大学財務・経営センター債務負担金を含めて表示している。
（＊4）　一年以内返済予定長期借入金を含めて表示している。
（＊5）　一年以内支払予定のリース債務（未払金）及び一年以内支払予定のＰＦＩ類似債務（未払金）については、長期未払金に含めて表示している。

(注)　金融商品の時価の算定方法
⑴　投資有価証券
時価については、取引金融機関から提示された価格によっている。
⑵　現金及び預金、並びに⑶　未収附属病院収入
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。
なお、未収附属病院収入のうち貸倒懸念債権等特定の債権については、回収可能性を検討し、時価を算定している。
⑷　国立大学財務・経営センター債務負担金、⑸　長期借入金及び⑹　長期未払金
これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又は、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法により算定している。
⑺　未払金
短期間で決済されるため、時価は帳簿価格にほぼ等しいことから、当該帳簿価格によっている。

（資産除去債務）
①　資産除去債務の概要
放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の規定に基づく工具器具備品の放射化物除去義務及び土地の使用許可に伴う原状回復義務である。
②　資産除去債務の金額の算定方法
使用見込期間を取得から17年～41年と見積もり、割引率は、1.47％～2.13％を使用して資産除去債務の金額を計算している。
③　当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	207,836千円
時の経過による調整額	3,036千円
その他	△53,516千円
期末残高	157,357千円

（重要な後発事象）
該当事項なし。